



森嶋、僧侶になるってよ



～元サラリーマン、僧侶への道～その二

こんにちは、僧侶見習いの森嶋です。連載第2回目。今回は僕の生い立ちと、お寺で働く事になったきっかけをお話したいと思います。

1986年、和歌山県六十谷で森嶋家の長男として生まれました。父は大阪、母は和歌山出身で、特に信仰は無く、いわゆるほぼ無宗教の家であります。保育園、小中高とそれなりに充実して過ごし、大阪の大学に和歌山から通うことに。高校時代からカを入れていたバンド活動の影響もあり、大学卒業後、大阪にあるライブハウスに勤めることに（初めての大阪一人暮らし）。今思うと一般企業に就職せずライブハウスで働く事を、親がよく認めてくれたものです。感謝。ライブハウスでの仕事は1年半で、そう長くはながたけど、厳しい職場で、色々なノウハウを教えてもらいました。

その後和歌山に戻り、大阪（都会）から帰ってきた傷心の僕は「和歌山には素敵な場所がいっぱいある」と感じ、カフェ・ギャラリー・海の家・お寺…といった、当時まだ珍しかった「ライブハウス以外での演奏会」も『お運びなさい』という屋号を掲げて、2010年より定期的に開催していきましました。（現在も続いています）

その時のお寺というのが『善称寺』で、現住職は当時副住職をされながら、数地内で『ハミングボード珈琲』というお店を経営されてました。僕はこのお店のファンで、よく通ったものです。（寺男のマトバさん常連でした）いちお客としてはあったのですが、仲良くさせて頂くうちに、お寺の本堂でのライブも企画させて頂く事になりました。切り絵作家北や銀像作家エムに本堂を彩ってもらったり、県外から音楽家の方に来て頂いたり、インド音楽家『ヨシダダイキチさん』のライブも開催しました。

そういう中、僕は音楽の仕事でご飯を食べて行こうと、イベントの企画・制作、音楽家のツアー・マネジメントをしたりと色々奮闘しましたが、20代半ばになり結婚し、環境も変わり、某地元新聞社で広告を販売するサラリーマンとしてお勤めさせて頂く事になりました。

一方同じ頃、現住職が（当時は副住職がいよいよ住職になられるという事で、『ハミングボード珈琲』は小借まらわつ閉店。そして「これからのお寺」の事も考え、合同基『ゆずり葉の本尊』を建立されました。そのお墓の広告の相談もいただき、今度は堂主担当として善称寺に足を運ばせて頂きました。

そんな日々が7年ほど続いて、ある日、いつも通り住職と世間話をしていると突然「それはどうと森嶋くん、お坊さんになってうさぎ働けん？」と、「どういふ事ですか？？？仏教の学校出てないし勉強した事ないんですけど…」。「大丈夫！森嶋くんはお坊さんになって思うんよ。勉強はこれからしていけばいいから！」とお話を頂きました。要はスカウトですね。最初は「？？？」という感じでしたが、私生活での苦学や、実は昔から仏教に少し興味があり…と、不思議と「スーッ」と仏道に入る決心が固まりました。

当面のお仕事内容（目標）は「僧侶になること」。なんだかRPGゲームのようなプレイですが具体的には、お経や仏教の勉強をして資格を取得し、阿弥陀様のお教えもとに、さまざまな場面で読経や法話をさせて頂く予定です。日々のお悩み・お墓やご葬儀のご相談ももちろん、最近では始めたオンラインでのお勤め、イベントの企画など、できる事はたくさんあります。まだまだ始まるばかりですが、とても充実した日々を送っています。これもほんと「ご縁」のおかげですね。なんでもなすべ。



青色青光 黄色黄光
赤色赤光 白色白光
異なる色もみな光っている。



各種SNSフォローお願いします

善称寺のSNSが始まっています。僧侶見習い森嶋による「畑より愛を込めて」や寺男マトバさんの「善称寺草花帳」など、お寺や私たちを身近に感じてもらえる情報をのんびりと発信しています。



Instagram



フェイスブック



ツイッター



ライン



「おあさじ」ライブ配信中！

InstagramとYouTubeで、火曜日以外の毎朝9時から、おあさじ（朝のお勤め）をライブ配信しています。YouTubeの方は、一緒に拝読していただけるようお経を表示しています。皆さんも一緒にお念仏いたしなう。もちろん、本堂へお参りくださるのも大歓迎ですよ。



YouTube



お盆

拝読 浄土真宗のみ教えより

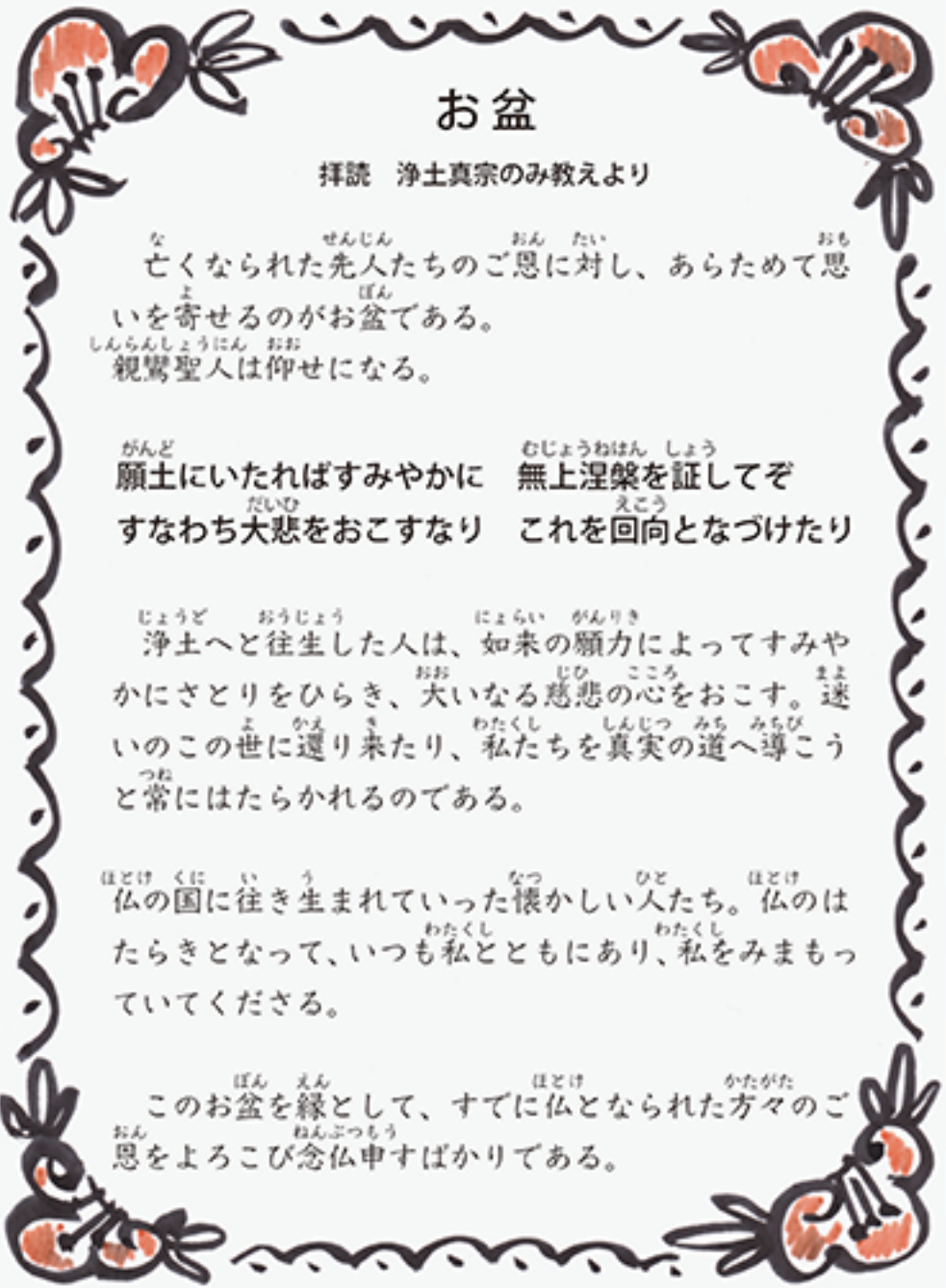
亡くなられた先人たちのご恩に対し、あらためて恩を寄せるのがお盆である。
親鸞聖人は仰せになる。

願土にいたればすみやかに 無上涅槃を証してぞ
すなわち大悲をおこすなり これを回向となづけたり

浄土へと往生した人は、如来の願力によってすみやかにさとりをひらき、大いなる慈悲の心をおこす。迷いのこの世に還り来たり、私たちを真実の道へ導くと常にはたられるのである。

仏の国に往き生まれていった懐かしい人たち。仏のはたらきとなって、いつも私とともにあり、私をみまもってくださる。

このお盆を縁として、すでに仏となられた方々のご恩をよろこび念仏申すばかりである。



んて、決して新願で「はな」は「い」の「う」に「は」合「あ」し「て」過「ぎ」し「一」日「を」感「謝」で「か」く「り」、ま「た」朝「の」礼「拝」で「心」